

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「セブン新容器“着色剤減らします” リサイクルしやすく」
- 2) 「代ゼミ講師の手にかかると“コーヒーはかくも面白い”」
- 3) 「“車中泊”専用駐車場!? 全国で普及する車中泊専用施設“RVパーク”とは」

1) 「セブン新容器“着色剤減らします” リサイクルしやすく」

コンビニ大手が環境配慮型の製品の利用を増やしている。セブンイレブン・ジャパンは5月下旬から、全国の店舗で石油由来のインクや着色剤を減らした容器を順次導入。ローソンやファミリーマートもプラスチックの使用量を減らした容器や包装に力を入れる。消費者の関心が高まるなか、環境負荷の少ない素材に切り替え持続可能な社会の実現に貢献していく。

セブンイレブンは全国の約2万1400店で、約60アイテムを対象に順次、環境に配慮した容器に切り替える。弁当類の容器で使っていた着色剤を削減し、パスタなどの麺類の容器では石油由来のインクの使用を減らす。白色や半透明と再利用しやすい容器に変更する。

同社は従来、「商品をよりおいしく魅力的に見せるため」（広報担当者）、一部容器に着色剤やインクを使っていた。ただ、各企業で環境対応が求められるようになりセブンイレブンも対応を検討。今回の取り組みについて、昨年12月に北海道の店舗で先行導入したところ、「顧客の反応は悪くなかった」（同社）。購入動向にも大きな変化がなかったため、全国展開していくことに決めた。

5月下旬から首都圏を中心に導入を進め、今夏までに全国の店舗で採用していく計画だ。

環境配慮型の容器に変更することで、容器の製造工程などで排出される二酸化炭素（CO2）も減らす。全国の店舗ベースで計算すると、新たな容器を採用することでCO2排出量を年約800トン削減できるようになるという。

セブンイレブンやイトーヨーカ堂などを含めセブン&アイ・ホールディングスとして、30年にCO2排出量を13年度比50%減らす計画を持つ。50年までに排出量「実質ゼロ」を見込んでおり、容器の改善など地道な工夫を重ねていく。

他のコンビニ大手も積極的に環境対応を進めている。ファミリーマートは22年春からアイスコーヒーのカップを順次、プラスチックから紙に変更。一部おにぎりの包材フィルムを薄くし、バイオマス配合の素材に変更した。サラダ全品の容器について環境配慮型の製品を採用している。

また、100%植物由来の原料を使ったスプーンや木製のマドラーなども採用済みだ。会社全体で30年度までに石油由来のプラスチック使用量を19年度比50%減らす方針を掲げる。

ローソンは22年11月、関東の店舗で販売するサラダ2品の包装材の仕様を変えた。上蓋をシールタイプにすることで、以前の蓋と比べプラスチックの使用量を抑制。22年には持ち手部分に穴を開け、長さも短くしたプラスチック製のスプーンとフォークを導入し、年約67トンのプラスチック使用量の削減を見込む。

若い世代を中心に、商品を選ぶ上で環境に配慮した取り組みが一つの条件となってきた。商品力や価格に加え、環境分野での知恵比べも一段と激しくなっていきそうだ。

(日経MJ 2023/4/22)

一般的にパッケージの形状やデザインは商品イメージを大きく左右するが、先行導入の結果を見る限りコンビニ・特に即食商品に関してはその比重は高くないようだ。多少見た目が簡素であっても種類が豊富で便利という点が支持されていると思うし、それが環境配慮につながるのであればどんどん進めてもらえればと思う。ただ、コンビニ食品は美味しさを保つために容器の中に更にトレーが入っていたりフィルムや小袋がたくさんあったりすることが多いが、次はそれも減らせるような工夫があれば目に見えるゴミが減るので嬉しい。

2) 「代ゼミ講師の手にかかると“コーヒーはかくも面白い”」

代々木ゼミナール(代ゼミ)はキーコーヒーとコラボしたコーヒーの映像講座を制作し、3月から販売している。

人生100年時代が喧伝される中、代ゼミ講師を核とした伝え方のノウハウを活用して、受験生以外の幅広い層を対象に、リカレント(回帰教育)やリスキリング(新たなスキル習得)の機会を提供していくのが狙い。

映像講座は「植物としてのコーヒー」(生物)「コーヒーは世界にどう広まった」(世界史)「コーヒーはどこからやってくる」(地理)といったテーマで代ゼミ講師が語るものと、コーヒーの飲み方・いれ方などキーコーヒーが担当するパートに大別され、計12回分(各回約15分)で構成されている。

販売開始以降の初動は上々で「ありがたいことに大変好調で想定以上の反響をいただいている」と胸をなでおろすのは、映像講座の旗振り役をつとめる代ゼミの松本拓也さん。松本さんの所属する教育事業開発部では、キャリア教育と大学支援の2本柱で事業領域の拡大に取り組んでいる。

キャリア教育の一環として、これまで250程度のテーマを扱ってきた中で、松本さんが今回、コーヒーに着目したのは、一冊の本「コーヒーの科学」(ブルーバックス・旦部幸博著)との出会이었다。

「私自身、もともとコーヒーが好きで、コロナ禍に、もっと深く知りたいと本を読むようになった。その中でコーヒーはただの飲み物・食品ではなく、生物・化学・世界史・地理といった科目が横断的に結びついていることに気がつき、ぜひ講座にしたいと企画を立ち上げた」と振り返る。

相談を受けた上長は「コーヒーは生活に密着した食品の1つであるので、とにかく楽しいと思ってもらえる内容にすることを唯一の条件として出した」と語る。楽しめるコンテンツの1つとしてコーヒーのいれ方などが候補に挙がり、白羽の矢が立てられたのがキーコーヒー。

松本さんの提案を最初に受けたキーコーヒー広報チームの小山泰知さんは「弊社は“誰でも、簡単に、おいしく”をテーマに100年間活動してきた。次の100年はコーヒーの“楽しさや興味深さ“を広めたいと考えており、弊社の想いと合致したことに加えて、キーコーヒーは若年層からの認知が低いという課題もあったため逆に有難いご提案をいただいた」と感謝の意を表す。

両社協議を重ねて編み出された映像講座の中で、代ゼミ講師担当パートは、コーヒーメーカーの小山さんにとっても目からうろこが落ちるような内容だという。

「今までになかった切り口で、コーヒーはかくも面白いものなのかと思い直した。初めて知ることが多く、コーヒーの魅力、奥深さを改めて実感した」（小山さん）と述べる。代ゼミ講師の特徴について松本さんは「難しいテーマであっても、噛み砕いてわかりやすく伝えることができる。例えば大学の教授は専門的に詳しい話ができるが、聞き手にもある程度知識が求められる。高校の先生は丁寧な授業をされるが、そこでパフォーマンスは重要視されない」と説明する。

代ゼミ講師がコーヒーの映像講座を担当するにあたり、講師自らもがコーヒーについて学ぶ必要があるのでは、と疑問が浮かぶ。この疑問に対しては「講師はコーヒーの専門家ではないが、例えばコーヒーの焙煎を化学変化と捉えれば通常授業の延長として教えることができる。世界史や生物も同様で、コーヒーだけにフォーカスして講義をするイメージ」と回答する松本さん。

リカレントやリスキリングの機会提供以外には、「総合的な探求の時間」（2021年度までは「総合的な学習の時間」）のテーマとして「コーヒー」や「コーヒーとSDGs」が取り上げられる可能性にも着目する。

松本さんは「大学入試や高校の授業においても、科目横断的なものの捉え方や、探究の考え方が求められている。自ら課題を発見し解決までの道筋を検討する題材として、身近な存在であり、高校教科との結びつきが強く、そして社会問題を学ぶ入り口にもなるコーヒーは取り扱いやすいテーマだと考える」との見方を示す。

5月20日には映像講座へのトライアルを目的としたリアルイベントとして「世界を動かしたコーヒーの歴史」（約40分）と「ブレンドコーヒーを作ってみよう！」（約80分）の二本立ての企画を予定している。

事業領域の拡大を進める代ゼミ。キーコーヒーとしても若年層の取り込みで新境地を開く可能性がある。

小山さんは「代ゼミさまの全国各拠点でのリアルイベントや、受験生向けのブレンドコーヒーの開発など、様々な可能性を検討している。学生や若年層とのタッチポイントを増やしてブランドを浸透させていきたい」と期待を寄せる。

（2023/4/30 食品新聞）

コーヒを「食品」としての視点だけで見るのではなく、科学や歴史、地理など様々な角度から紐解くというのが斬新で話を聞いてみたいと思う。食品のセミナーは多く開催されていると思うが、美味しさや安心・安全といった内容に加え「へえ～」と関心するようなことを知ればより親しむきっかけになりそうだ。学生時代は苦手だった科目も歳を重ねた今、こうした切り口から入っていくとするする頭に入ってきてきそうな気がする。

3) 「“車中泊”専用駐車場!? 全国で普及する車中泊専用施設“RVパーク”とは」

クルマの中で寝泊まりする「車中泊」は、宿のチェックインや食事の時間を気にすることなく、好きな時に好きな場所へ移動でき費用も安く済むため近年人気上昇中だ。そんななかで、安心安全に車中泊ができる有料施設として注目が集まっているのが「RVパーク」。

RVパークは、全国のキャンピングカー製造ビルダーやディーラーが加盟する「日本RV協会」(JRVA)公認の有料車中泊専用施設だ。

RV (Recreational Vehicle : レクリエーショナル ビークル) とは主に欧米で「キャンピングカー」を指し、RVパークとは「キャンピングカー用の駐車場」という意味だが、キャンピングカーではなくても、車中泊をしたい人であれば誰でも利用することができる。

全国各地の温泉や旅館、道の駅、遊園地などの施設に設置され始めており、複数日の滞在が可能なので、RVパークを拠点として周辺を観光したり、各地のRVパークを転々としながら旅行を楽しんだりできる。また、町の空き駐車場や公園の駐車場をRVパークとして利用することで、町の活性化にもつながっているという。

そんなRVパークは「快適に安心して車中泊が出来る場所」を提供するために、8つの条件が定められている。

1. 「余裕のある駐車スペース」(横4m×縦7m以上を推奨)
2. 「24時間利用可能なトイレ」がある
3. 「100V電源が使用可能」(20A以上推奨)
4. 「入浴施設が近隣にあること」(遠くともクルマで15分圏内が望ましい)
5. 「ごみ処理が可能」
6. 「入退場制限が緩やか」
7. 「看板の設置」
8. 「複数日の滞在が可能」

料金は施設によって異なるが、平均すると一泊2000円から3000円程度となっている。前出の通り、24時間利用可能なトイレ、ごみ処理や電源の設備が充実しており、しかも安く停める(宿泊できる)のが魅力だ。

また、RVパークは温泉や道の駅などに併設されていることが多く、RVパーク利用者には割引サービスを提供している施設もある。旅先での食事や入浴を楽しみたい人にはうれしいポイントであり、施設によって利用できるサービスが異なるのも特徴のひとつだ。

車中泊ができる場所として一般的に利用者が多いのが、道の駅や高速道路のサービスエリアやパーキングエリアだが、車中泊は原則として禁止となっている。

もちろん車中泊の利用を容認する公共駐車場もあるため、利用ユーザーが増える一方で、長時間利用やゴミの不法投棄、騒音などのマナー違反が問題視されているのが現状。なかには、そこがキャンプ場かのように勘違いし、飲酒や煮炊きをしたり、宴会を行うような悪質なケースも見られるという。

そこで日本RV協会では「公共駐車場におけるマナー10か条」を定めている。

- 長期滞在を行わない
- キャンプ行為を行わない
- 許可なく公共の電源を使用しない
- ゴミの不法投棄はしない
- トイレ処理は控える
- グレータンク（キャンピングカーから出る生活排水を溜めるタンク）の排水は行わない
- 発電機の使用には注意を払う
- オフ会の待ち合わせは慎重に
- 車椅子マークの所に駐車しない
- 無駄なアイドリングをしない

上記のようなマナーを守り、誰もが快適に施設を利用できるようにすることが大切だ。

RVパークであれば、車中泊を目的としての利用が可能で、ゴミ処理やトイレ、電源の心配もない。

利用する駐車スペース内であれば、原則的に椅子やテーブルを出すこともできるが、夜間は周囲に配慮するといった基本的なマナーに加え、各RVパークごとの利用規約に従う必要がある。

いずれにしても車中泊をするなら、専用の施設であるRVパークの利用がおすすめといえる。

（2023/4/30 くるまのニュース）

コロナをきっかけにブームが加速したアウトドアだが、車中泊もすっかりおなじみになってきているのでこうした施設が増えればより快適に過ごすことができるだろう。マナーが守られることが前提ではあるが、例えば広い駐車場を確保できる郊外のスーパーマーケットの駐車場もRVパークとして利用できれば来店動機にもつながり有効活用になるのではないか。スーパーには食を通じてその土地の魅力を伝えることができる力があるので、こうした取り組みがあっても面白いと思う